



Nagasaki Marriott Hotel

JR 長崎駅前に開業した長崎マリオットホテルのアートディレクションを手掛けました。海と山に囲まれた複雑な地形、叙情的な街並み、南蛮貿易の記憶、訪れる人を魅了する長崎の特徴を、波佐見焼や吹きガラスなど長崎の伝統工芸から、海外のアーティストによるグラフィックアートまで、「遙か遠い異国から吹く風」というアートコンセプトと共に、さまざまなアプローチでアートワークへ落とし込みました。異文化のコラボレーションによる多種多様なアートワークが、時代や海を超え、より長崎らしさを助長したアートディレクションとなっています。

物件名
長崎マリオットホテル
開業
2024年1月
事業主
JR九州ホテルマネジメント
インテリア設計
株式会社 久米設計



1F Arrival Lobby:

Sea Mist Rising & Misty Mountains

世界を旅しながら自ら撮影し、ピクセルソーティングという技法を用いて抽象化したグラフィックを制作しているアーティストとコラボレーションしたアートワーク。このコミッションワークのために初来日して頂き、長崎各地をアテンドしながら撮影を行いました。1Fは海の情景として無数の島々が海に浮かぶ「九十九島」、レセプションフロアの7Fには長崎市のアイコンである「稲佐山」の情景をグラフィックアートへ昇華させました。それぞれのグラフィックに適したクロスを選定し、グラフィックを効果的にアウトプットしています。

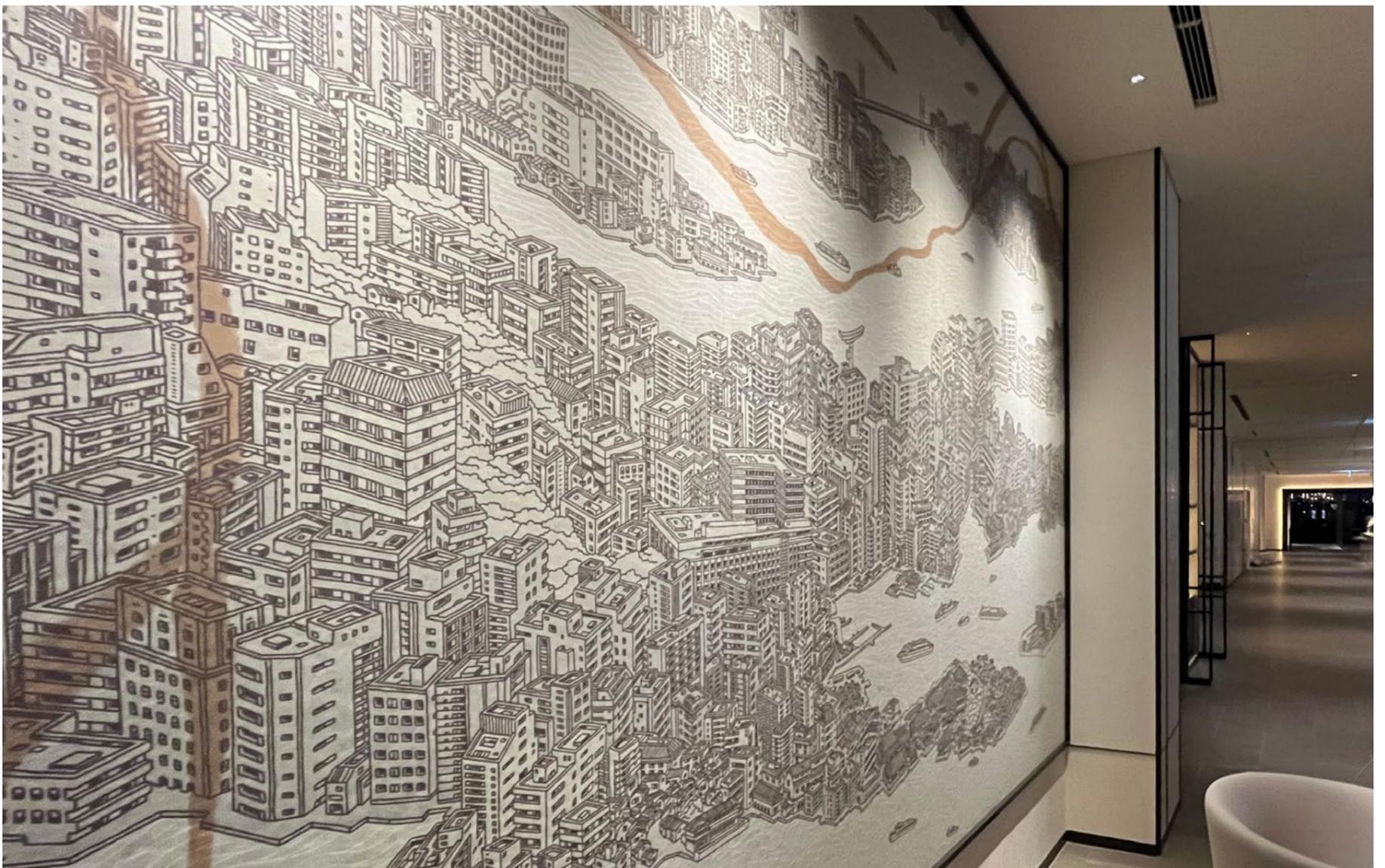


「九十九島」の撮影風景

7F Lift Lobby「稲佐山」

7F Concierge Desk: *Above the Clouds*

コンシェルジュデスクの背面には長崎の街並みを俯瞰したグラフィックをポルトガル出身のアーティストに描いて頂きました。坂の多い長崎の街並みの中に、大浦天主堂や造船所、軍艦島、女神大橋など、長崎の名所を随所に散りばめています。今回開業したマリオットホテルも街の中に隠れています。



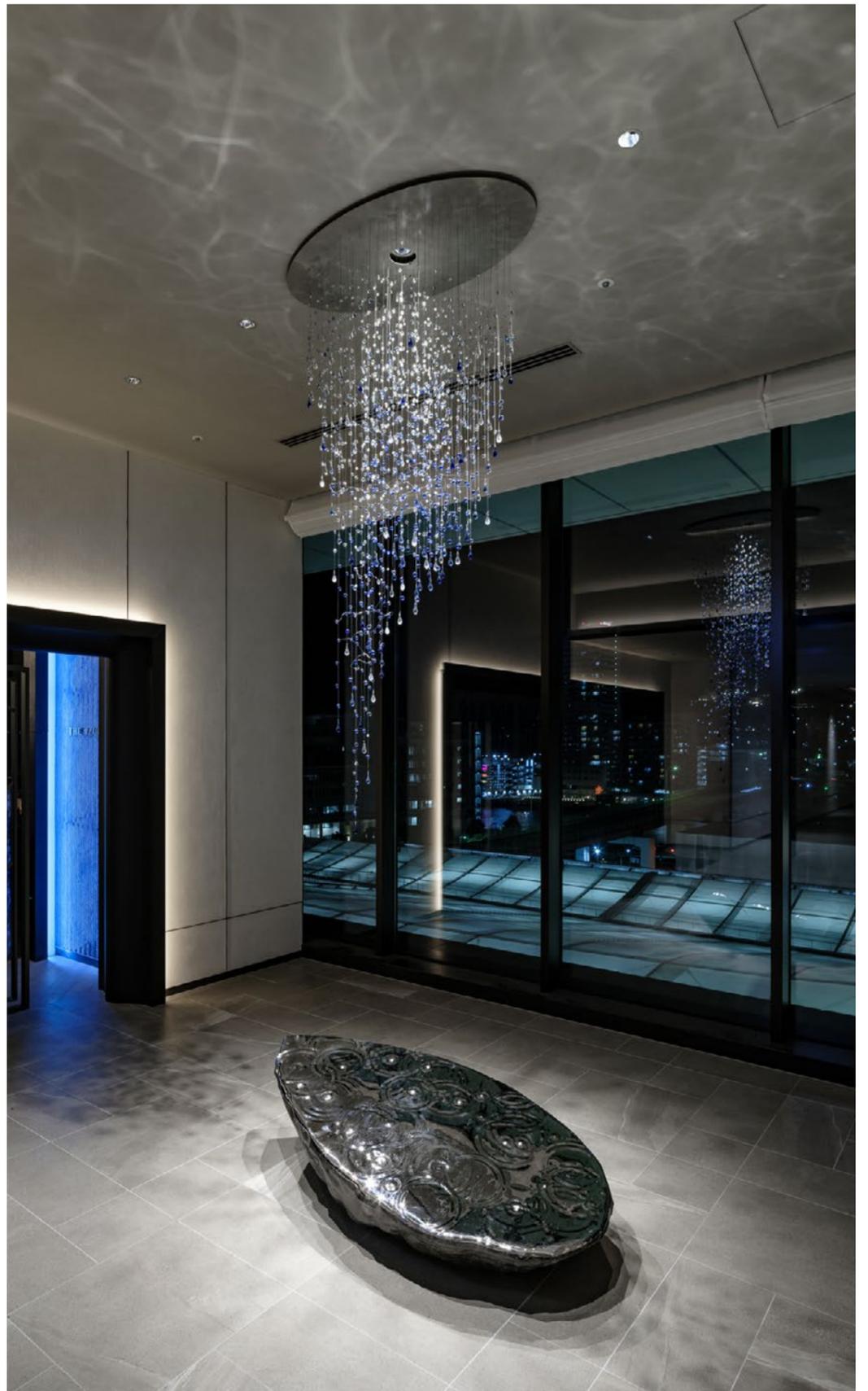
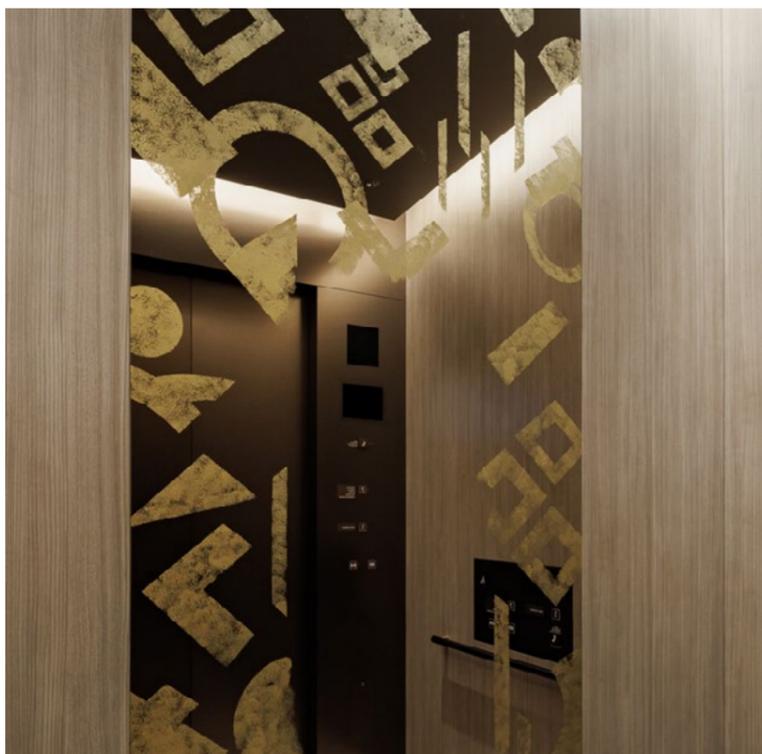
7F Reception Lobby: *Voyage memories*

稲佐山を一望する開放的なレセプションロビー。ディスプレイのスタイリングコンセプトは「航海の記憶」。南蛮大皿やコンプラ瓶、船舶オブジェなどの時代を感じる骨董品と、モダンなガラスオブジェをバランスよく構成しました。



7F Lift Lobby: *Above the Clouds & Rainy Blue*

長崎の空に浮かぶ「雲」と「長崎帆（ハタ）」、そして「雨」の情景。エレベーター内には長崎帆からグラフィックを抽出しペインティングで仕上げました。エレベーターホールには、「雲」をイメージした抽象画を海外のアーティストに描いて頂きました。反対側には「雲」と呼応するように「雨」をモチーフとした瑠璃色ガラスのインスタレーションが空間を彩っています。



7F Bar Lounge: *Under the moonlight*

ブルー調で構成されたバーラウンジには、月灯りの下で優しく光る海をイメージし、ブルー系のガラスオブジェをグラデーションになるように配置し、より印象的なシーンを演出しています。



7F Private Dining Room: *Roots of Nagasaki*

オールデイダイニングの個室は、長崎のルーツを感じられるアートスタインリングにしました。「長崎くんち」の龍の鱗をモチーフとしたウッドレリーフを中心に、ディスプレイは「和華蘭文化」を感じさせるアイテムをセレクトしています。

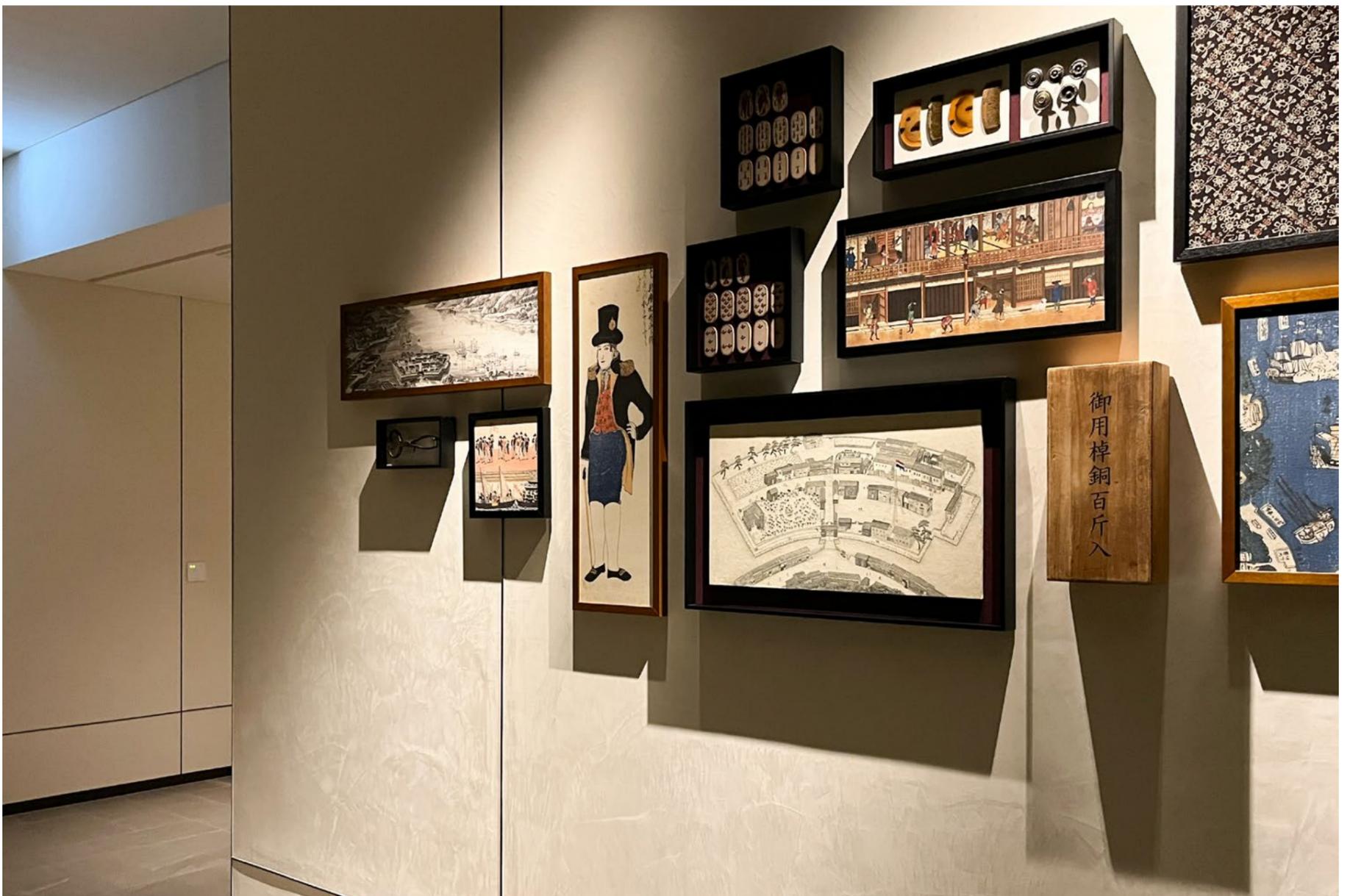


7F Speciality Restaurant: A Scenery of Dejima

スペシャルティレストラン「Dejima」のアートコンセプトは「南蛮貿易の記憶」。モダンでスタイリッシュなレセプションロビーから、庭に囲まれた渡り廊下のような通路を抜けると「Dejima」があります。現代的なロビー空間から過去へと誘う装置として、レストラン入口のアートワークを構成しました。



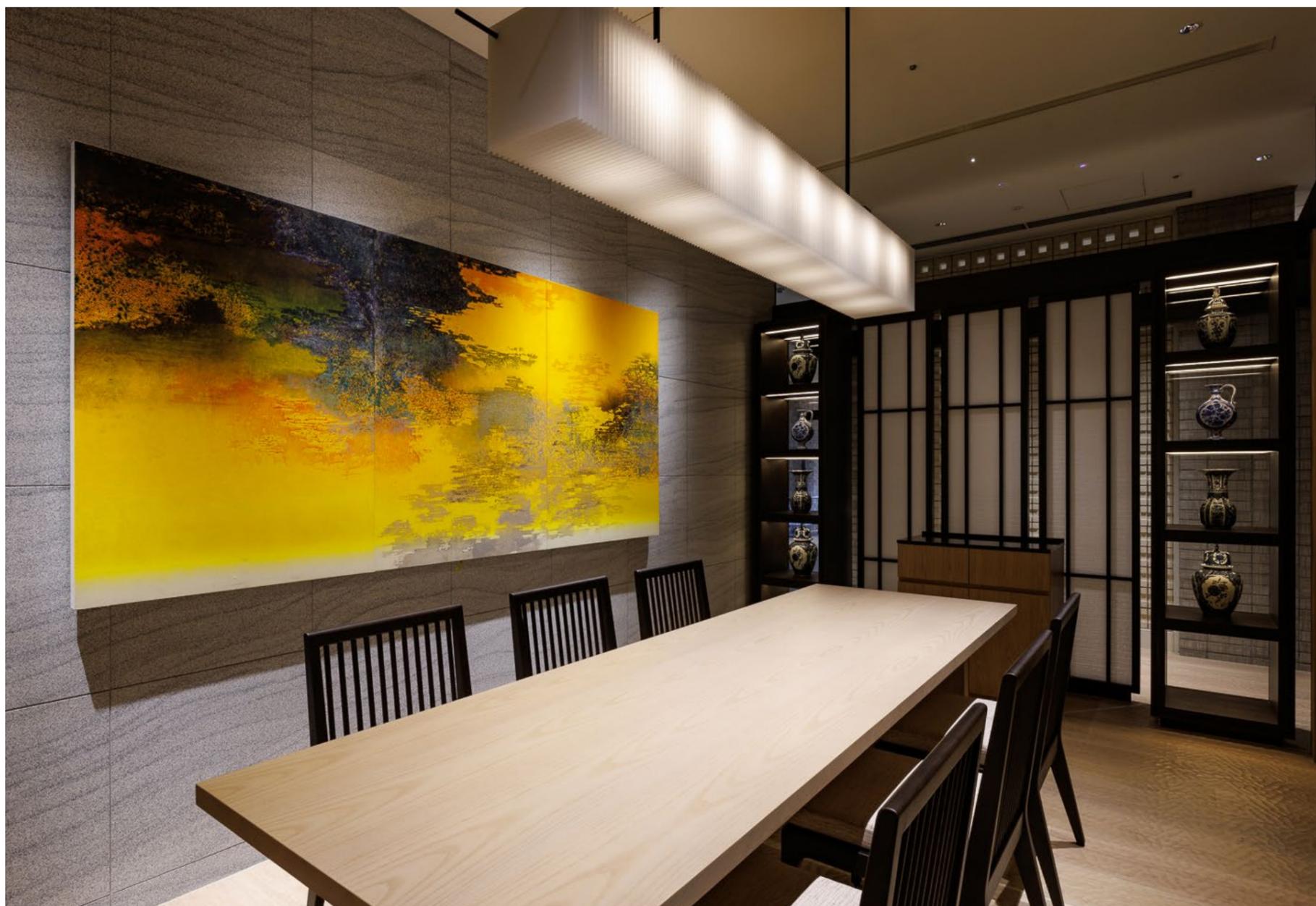
エントランス通路の正面に設置したアートワーク。日本古来より使用されている木と金箔の風合いがゲストの感性を過去へ誘います。



エントランス通路の反対側に設置したアートワーク。長崎絵、長崎版画や南蛮加留多など、南蛮貿易の記憶をコラージュした額装を立体的に構成しています。

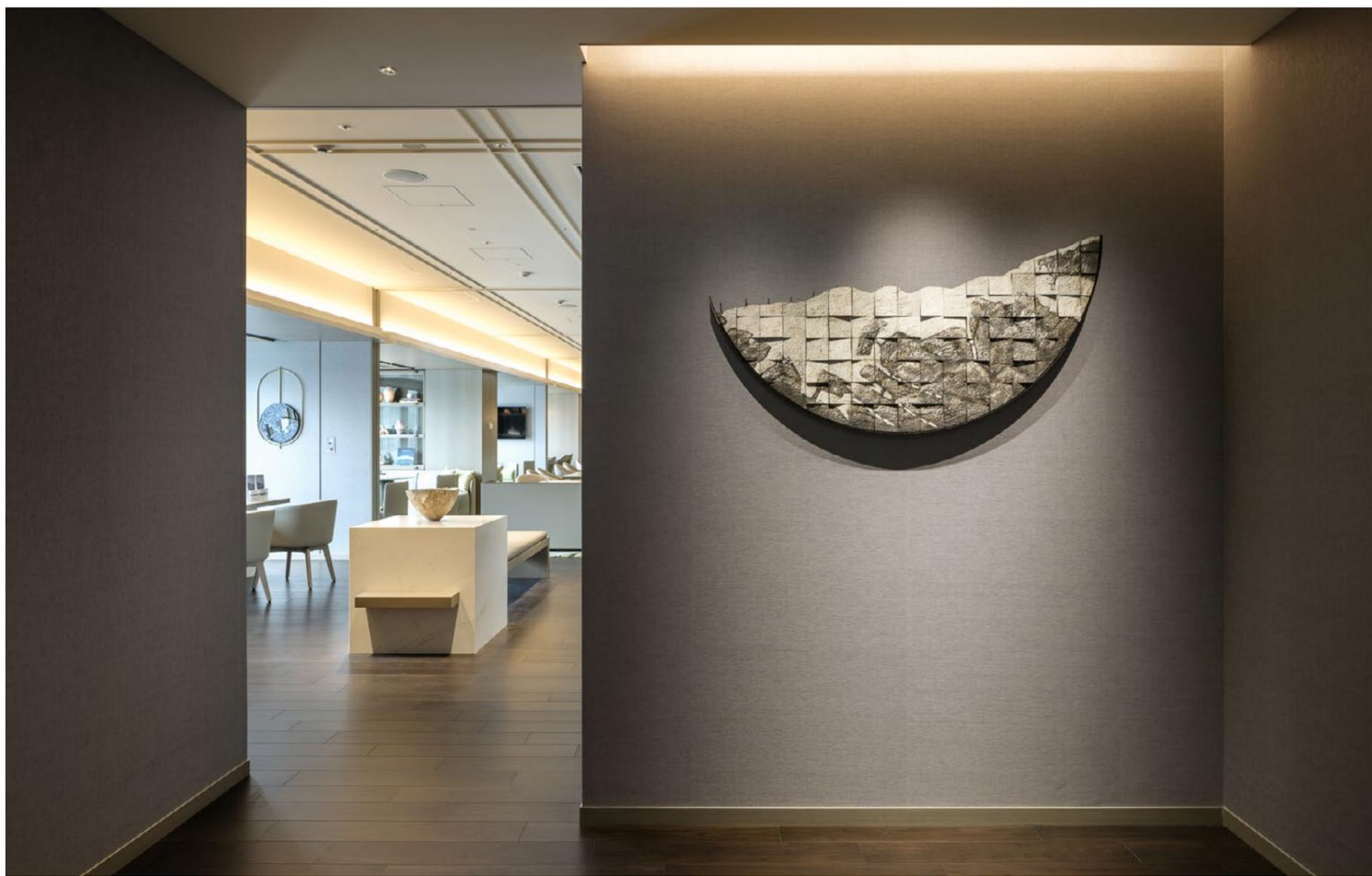
7F Speciality Restaurant: West meets East / East meets West

鉄板カウンターには「西洋からみた東洋」をコンセプトに、ポルトガル人アーティストによる墨象アートを制作しました。躍動感ある筆のストロークと箔の風合いが見事にマッチしています。寿司個室には「東洋からみた西洋」をコンセプトに、日本人作家による木版画作品を設置しています。航海の情景が感じられる、とても印象的な作品です。

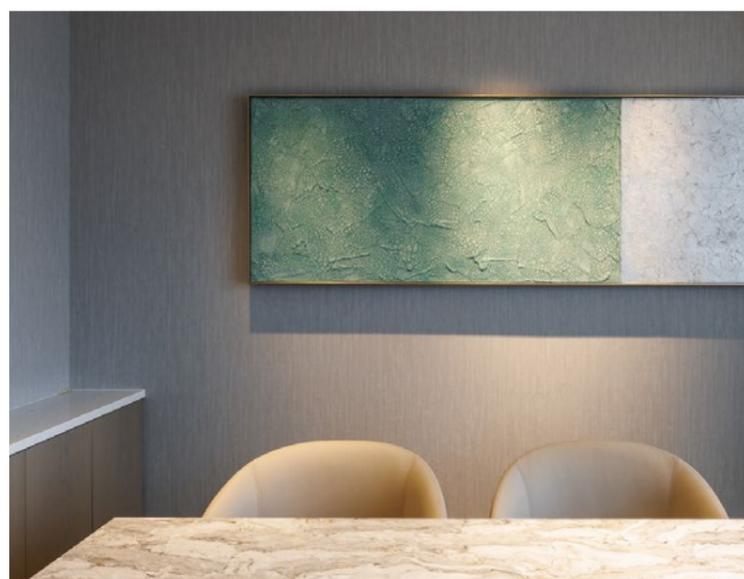
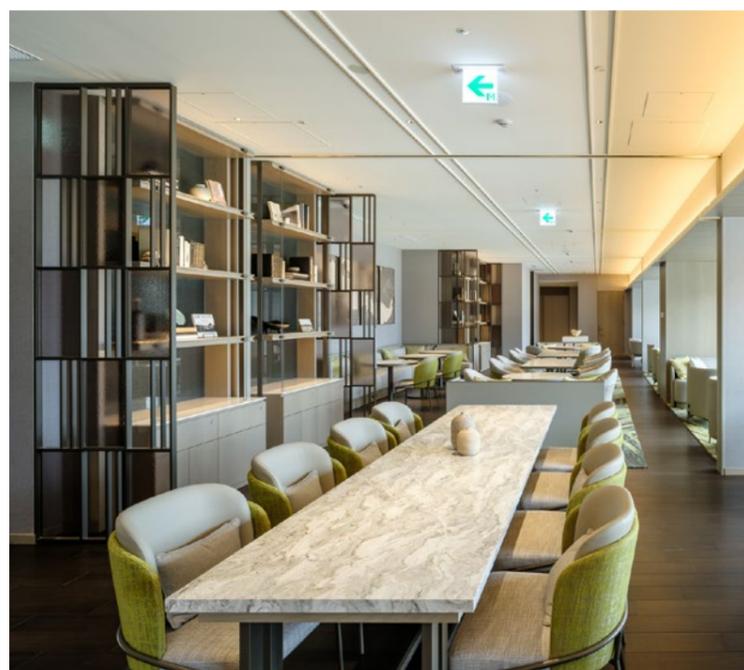


13F Executive Lounge: *Ocean and Mountains*

13Fにあるエグゼクティブラウンジは、海と山に囲まれた豊かな自然の中で育まれた長崎の文化の重層をテーマに、立体的で素材感のあるアートワークを各所に展開し、ライブラリーにはよりディープな長崎が感じられる工芸品や書籍をセレクトしています。



エントランス正面に設置したアートワーク。立体的なレリーフの中に南蛮貿易時代の出島が描かれています。



Guest Room: *Blowin' in the Wind*

スタンダード客室には、3つのアートワークを設置しました。ヘッドボードには海に見立てた壁面に浮かぶ「舟」をモチーフとした波佐見焼のセラミックオブジェ、ミニバー上には瑠璃色の吹きガラスオブジェ、玄関脇のニッチには「帆」をモチーフとしたメタルオブジェを設置。地元の工芸をモダンなインテリアにアジャストし、洗練されたデザインにまとめました。



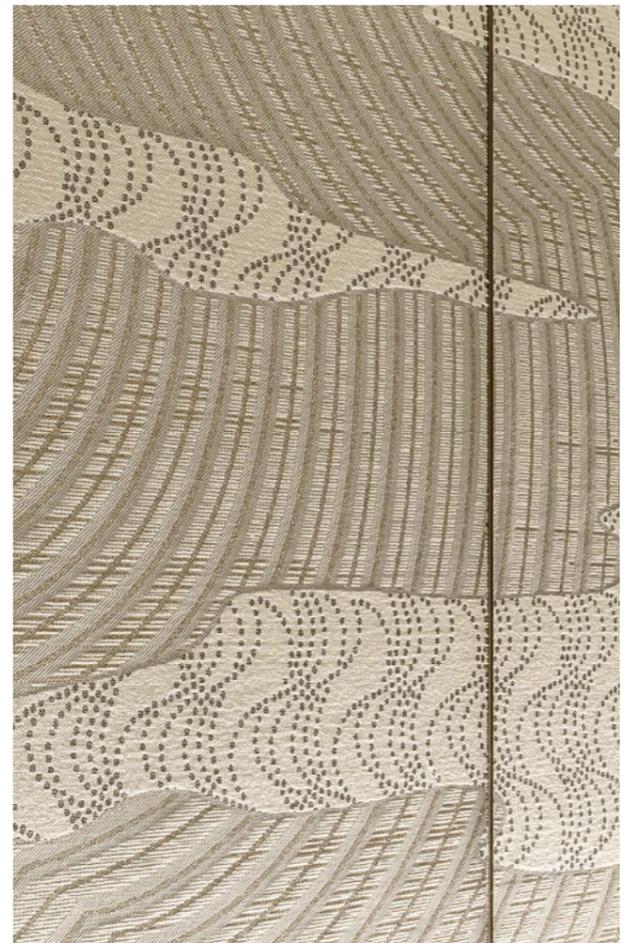
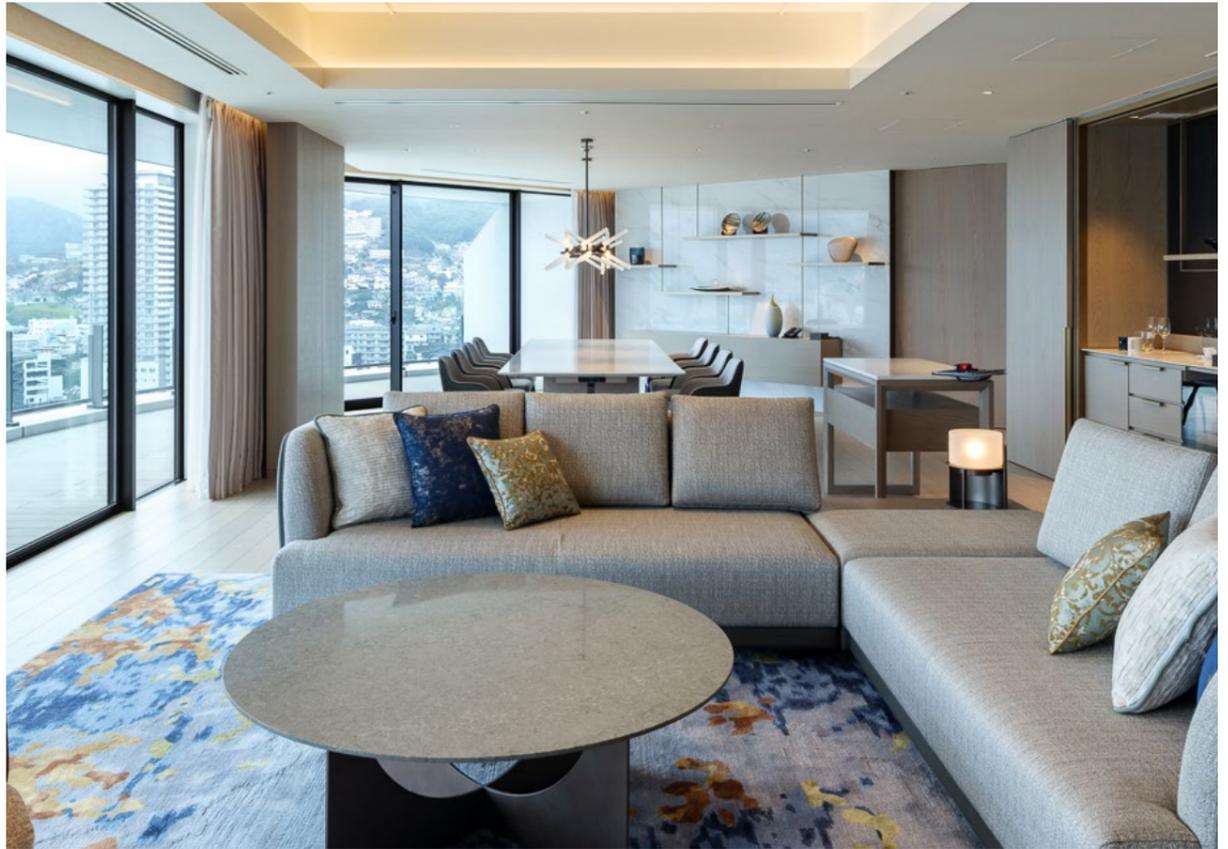
Suite

スイート客室は長崎の港に吹く風をテーマとして、寝室には抽象的なヘッドボードグラフィック、リビングルームにはブルーが印象的なメタルオブジェを設置しました。



Imperial Suite

1室のみのインペリアルスイート客室は、より特別感が感じられるディレクションとして、「長崎刺繍」をイメージしたジャガード織のヘッドボードアートワークの他、「長崎コレクション」をテーマとした1点ものの作家作品を数多く収集し、壁面や棚に配置しています。



ICA

Interculture Art Inc.

ICA Bldg. 4F, 560-2 Waseda-Tsurumakicho,
Shinjuku-ku, Tokyo 162-0041

t: +81(0)3-3207-3911

e: contact@intercultureart.com

intercultureart.com

©Interculture Art Inc.

